

■リーダーの手引き

2022年「10日間の特別祈祷」へようこそ！ 私たちは、リバイバルは祈りから始まると信じています。私たちが祈りと断食によって求める時、主は多くの奇跡を行ってこられました。聖霊は、リバイバル、回心、伝道への熱意の回復と、人間関係における癒しを与えてくださいます。

あなたにもリバイバルへの召しが聞こえますか。聖書はそのためのすばらしい約束で満ちあふれています。

「もしわたしの名をもって呼ばれているわたしの民が、ひざまずいて祈り、わたしの顔を求め、悪の道を捨てて立ち帰るなら、わたしは天から耳を傾け、罪を赦し、彼らの大地をいやす」(歴代誌下7章14節)

「もし、あなたがたが心を尽くしてわたしを捜し求めるなら、わたしを見つけるだろう」(エレミヤ書29章13節、新改訳)

「すべて主の名を呼ぶ者は救われる」(ヨエル書2章32節、口語訳)

「神に近づきなさい。そうすれば、神は近づいてくださいます」(ヤコブの手紙4章8節)

「見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう」(ヨハネの黙示録3章20節)

あなたがどこにいても、何をしても、神はあなたが思うより近くにおられます。神は、ご自分の祝福をあなたの家族や教会、会社やコミュニティー、そして世界に注ぎたいと願っておられます。聖霊を通して、霊的なリバイバルを求める祈りに、今日から加わってください！

「10 日間の特別祈禱」について

■日ごとの読み物

10 日間毎日、「日ごとの読み物」が用意されています。最初のページは聖句と、短く実用的なすすめで始まります。続いて「神の御言葉によって祈る」と「更なる祈りの提案」を記載しています。参加者には、読み物をコピーして配布することをおすすめします。

世界中の教会が、日ごとのテーマで祈ることによって、心一つにすることができます。聖句やあかしの書の引用、また祈りの提案を用いて、特別祈禱に加わりましょう。ただし、祈りの提案をすべて祈らなければ、と感じる必要はありません。何人かの小さなグループに分かれて、それぞれが割り当てられた祈りの提案を祈ることもできるでしょう。

祈りの提案のいくつかは、世界中のセブンスデー・アドベンチスト教会についてのもので、わたしたちの教会家族について祈ることは大切なことですが、グループに地域からの来訪者がいたならば、むしろ地域に根ざした祈りのためにこの時間を用いても良いでしょう。

どのようにすれば来訪者を居心地良く歓迎でき、グループの一員だと感じさせることができるかを考えて計画しましょう。

■祈禱会の進め方についての提案

各部分にどれだけの時間をかけるかについては、祈る度に違ってくると思います。

以下の時間割は、一般的にうまくいくとされている例です。

- ・ 歓迎・導入： 2～5 分
- ・ 聖書やあかしの書の朗読： 3～5 分
- ・ 神様を賛美する祈りの時間： 10 分
- ・ 罪の告白と罪への勝利を求める祈りの時間： 3～5 分
- ・ 嘆願と執り成しの祈りの時間： 35 分
- ・ 感謝の祈りの時間： 10 分

■執り成しの祈り

10 日間の特別祈禱においてそれぞれが祈るべき 5～7 人を示して下さるよう神様に求めましょう。家族や友人、職場の同僚などが示されるかも知れません。その方々がキリストとつながることができるように聖霊が導いて下さることを祈り求めましょう。また、7 人の必要について、いかに祈るべきかを示して下さるよう、そして 10 日の間にその方々に働きかけることができるよう祈りましょう。参加者が祈る

人の名前を記録することができるようにカードや紙を配ります。本書の記入用紙をご活用ください。

■2022 年「10 日間の特別祈禱」における安息日について

安息日には特別な祈りの課題を決めて祈り、応えられた祈りについての証しをしましょう。日々行われる祈りの集まりでなにが起きているかを、兄弟である教会員と分かち合うのは素晴らしいことです。柔軟な発想をもって計画しましょう。

■最終日の安息日(15 日/土)について

最終日の安息日は特に、10 日間の特別祈禱を通して神様がしてくださったみ業に感謝するときとして計画しましょう。応えられた祈りについての証し、祈りについての聖書のメッセージ、そして賛美の時間を十分に確保しましょう。それまでの日ごとの祈りの集まりに参加できなかった人たちも、隣人のためにとりなして祈ることの喜びを体験することができるように導きましょう。

■2022 年「10 日間の特別祈禱」の

フォローアップ：全員参加伝道

2022 年の「10 日間の特別祈禱」で神様が始められたみ業が完成されるよう、また、神様があなたの教会や小グループに望んでおられることが示されるように熱心に祈りましょう。それは、毎週の祈禱会として継続することかも知れませんが、教会内もしくは地域における伝道のために、新しい働きを始めることかも知れません。心を開いて、神様が導かれるままに従いましょう。主と共に歩むとき、わたしたちは多くの驚きの体験することでしょう。

* 「10 日間の特別祈禱」伝道チャレンジも参照のこと。

【あなたの証しをお送りください】

2022 年の「10 日間の特別祈禱」を通して、神様がどのように働かれたかを、ぜひお知らせください！ あなたの経験は他の参加者にとっての励ましとなります。

pm@adventist.jp (信徒伝道部代表)
無料 FAX:0120-335-717

「特別祈禱」の指針

■祈りに同意する

神に願いをささげるとき、他の人が同じ願いをささげていれば心に留め、「同意」しましょう。これは力ある祈りです。もうすでに他の人がささげてしまった願いだから、同じことについて祈る必要はないとは考えないようにしましょう。

「また、はっきり言うておくが、どんな願い事であれ、あなたがたのうち二人が地上で心をつ一つにして求めるなら、わたしの天の父はそれをかなえてくださる。」(マタイ 18:19)

祈りの中で元気づけられることは、いかに大きな励ましとなることでしょう！

■神の約束に基づいて祈る

祈りにおいて用いることのできるさまざまな主題と聖書の約束を載せた資料を準備しました。祈りの集まりで、神の約束に従って祈ることを奨励しましょう。

わたしたち自身問題に目を向けることはたやすいことです。しかし、神の約束に基づいて祈るとき、わたしたちは自分の信仰を強めることができますし、神が働いてくださらなければすべては不可能であるということ再認識することができます。神様の約束は、わたしたちが自分の弱さや困難に目を向けることをやめ、キリストに目を向ける助けとなります。どんな弱さや困難であれ、それらに対する主の約束を聖書の中に見出すことができます。より多くの約束を探し、それらを書き留めて、約束に基づいて祈ることを奨励しましょう。

■断食（何かを断つ）

「10日間の特別祈禱」に参加する人たちに、「テレビを見ない」「世俗の音楽や映画・インターネットから離れる」、また「甘い食べ物や消化に悪い食べ物を口にしない」など、何らかの形で断食をするようにすすめてみましょう。それによってできた時間を祈りと聖書の学びに用い、あなたと教会員とがキリストとしっかりつながることができるよう神様に求めましょう。簡素な食事に慣れることにより、聖霊の声を受け入れることができるよう、心が整えられるのです。

■聖霊

一人の人のために、あるいは特定の状況において、何をどのように祈るべきかを教えていただけるよう聖霊に求めましょう。聖書には、わたしたちはどう祈るべきかを知らないが、聖霊がわたしたちのために執り成してくださると書かれています。

「わたしたちは、キリストの名によって祈るだけでは

なくて、聖霊に感じて祈らなければならない。『御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである』とされているのは、そのことを説明している。このような祈りを神は喜んで聞いてくださるのである

(ローマ 8:26)。

熱心に力をこめて、キリストの名によって祈るならば、そのような熱心さをもって祈ること自体が、『求めまた思うところのいっさいを、はるかに越えて』神がわたしたちの祈りに答えようとしておられることの神の保証なのである(エペソ 3:20)。」

(『キリストの実物教訓』126 ページ)

■一体感をつくりだす

特別祈禱の時間を始める際には、全員ができるだけ近くに集まるようにしましょう。それぞれが近づいて輪をつくることは、特別祈禱において非常に大切な一致の精神を高めます。参加者が部屋のあちこちに散らばっていると、それぞれの祈りの言葉も聞こえにくくなるものです。

■記録を残す

「10日間の特別祈禱」の記録を残すことは、日ごとの祈りの提案を自分のものとし、神様に対する献身を確かなものとし、主の祝福に気づくために有益な方法です。わたしたちの祈りを書き出し、神の応えを記録しておくことは、励ましを得る確かな方法なのです。

「10日間の特別祈禱」の記録の残し方は、いくつか考えられるでしょう。個人的な祈りの記録に、祈りに対する神の応えを記録する時間を祈禱会中に設けることができます。または、小グループとしてささげた願いごととその応えを記録することもできます。ノートでも、模造紙でも、黒板やホワイトボードでも、あるいはデジタルメディアを用いても良いでしょう。単純な例としては、紙の中央部分に縦線を引き、願いごとを左側に、それに対する答えを右側に書くことです。神様がわたしたちの祈りにどのように応えてくださったかを振り返ることは大きな喜びですし、信仰も強められます。

■畏敬の念

畏敬の態度を奨励し、それをモデル化しましょう。わたしたちは宇宙の王のみ座に近づこうとしているのです。祈りのときを、特に時間を気にすることもなく、単なる習慣として漫然と過ごすだけの時間にならないようにしましょう。しかし、祈るときは常にひざまずかなければならない、というわけではありません。教会員に居心地の良い1時間を過ごしてもらいたいと思う

のであれば、神が導かれるままに、それぞれにとって無理のないところで、ひざまずいたり、座ったり、もしくは立ったまま祈ることをすすめましょう。

■簡潔な祈り

祈りは短く要点を得たものであるべきです。それによって他の人たちにも祈る機会を与えるのです。祈りの言葉を2、3行の文章に留められるように挑戦してみましょう。それぞれが何回祈っても良いのです。短い文章の祈りは、祈りを飽きないものとさせ、聖霊の神様がわたしたちにどのように祈ったら良いかを教えてくださることにつながります。「天の神様」や「み名によって祈ります、アーメン」などの決まったフレーズにとらわれる必要はありません。祈りは、あなたと神様との会話だからです。

■静かな時間

リーダーとして、祈りの時間にとらわれすぎてはいけません。心がけるべきことは、できるだけ多くの人に祈ってもらうということです。神様に語っていただくという静かな時間を過ごすことは素晴らしいことです。聖霊のお働きに委ね、全員に祈りの機会を提供しましょう。

■賛美

祈りの途中での自然発生的な賛美は、祈りの集まりに美しさを加えます。毎日、日ごとの読み物の後半部で讃美歌を紹介していますが、すべての讃美歌を用いる必要はありません。これはあくまでも提案で

す。一つの祈りの項目から次の項目に移行する間にも賛美を用いることができます。

■祈りの提案について話し合わない

祈祷会中に祈りの提案を挙げてもらわないようにしましょう。その代わりに、各自がそれぞれの願いを祈るようにし、他の人たちがそれらの願いに同意したり、その願いを祈ったりするように奨励しましょう。その理由は時間です。祈りの提案について話し合うのには、最も時間を要します。サタンはわたしたちが祈るために時間を費やす代わりに、話し合うことばかりに目を向けさせることを喜びとするのです。カウンセリングをしたり、問題解決の方法を提案したりする人もいるでしょう。しかし、力は神様から来るものです！ わたしたちが祈れば祈るほど、主の大きな力が与えられるのです。

■日々の時間の過ごし方

これは非常に大切です！ リーダーであるあなたは日々、キリストのもとで時間を過ごし、主と語り、み言葉を読まなければなりません。もしあなたが神様を知ることを人生における最優先事項とするなら、素晴らしい経験への扉が開かれることでしょう。

「大宗教改革によって世界を揺り動かした力は、密室の祈りから出たものであった。そこにおいて、神聖な静けさのうちに、主のしもべたちは神の約束の岩の上しっかりと立った。」

(『各時代の斗争闘』上巻 261 ページ)